

子宮動脈塞栓術そくせんじゅつ(UAE)とは？

子宮動脈塞栓術（Uterine artery embolization: UAE）とは、筋腫を栄養する血管である子宮動脈の血流を止めることによって筋腫を縮小させる治療法です。

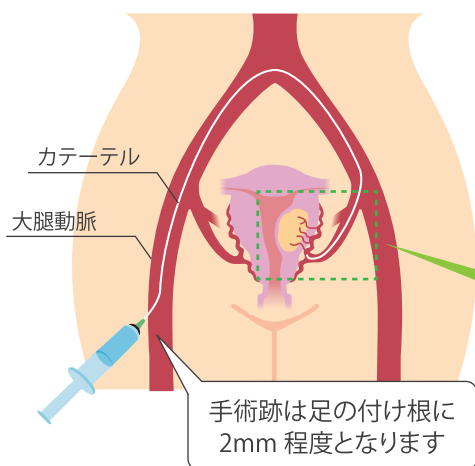
1995年にフランスで初めて報告されて以来、欧米を中心に普及した治療法です。現在では世界中で年間25,000人以上の患者さんにUAEが行われています。

一方、日本国内ではこれまでは保険で認められていない治療のため、高額な自由診療として一部の施設でのみ施行されてきましたが、**2014年4月に保険適応となり、保険診療の形でUAEが行えるようになりました。**

2014年4月から
保険適応と
なりました

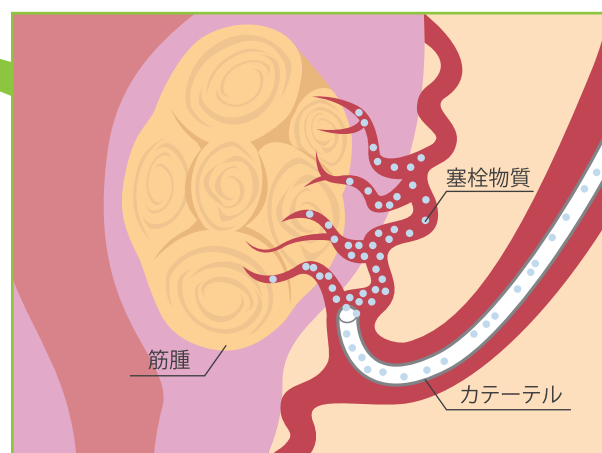


どんな手術なの？



1 この治療は、IVR（インターベンショナル・ラジオロジー）といわれるカテーテル治療を専門とした放射線科医がエックス線透視装置を用いながら施行します。

2 局所麻酔を行ったあと、大腿動脈という足の付け根にある動脈からカテーテルという細い管を入れて子宮動脈まで誘導し、球状塞栓物質といわれる小さな粒子を注入して血流を止めます。



- 治療時間は1時間程度です
- 治療後は足の付け根から入れたカテーテルは抜いてしましますが、確実な止血が得られるまで6時間のベッドでの安静が必要です
- その後は普通に歩行や食事、入浴もできるようになります

どんな人が対象の手術なの？

- ❖ 不正出血や強い月経痛などの症状を伴う子宮筋腫がある方
- ❖ 筋腫の数や大きさを問わず適応となりますが、筋腫の性状や部位によっては他の治療法がより適している場合もありますので、産婦人科医と放射線科医で相談して適応を決定します

※偽閉経療法を行っている場合は、治療を中断してから3か月は期間をおく必要があります。

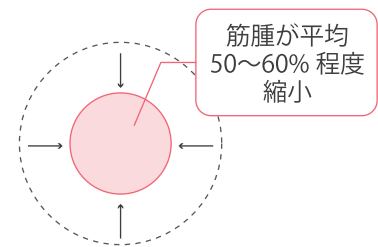
こんな方は UAE を受けることができません

- ❖ 妊娠の可能性のある方または妊娠中の方
- ❖ 造影剤で重篤な副作用が出たことがある方や（造影剤の）アレルギーがある方
- ❖ 骨盤内感染症や子宮または卵巣に悪性の腫瘍がある可能性が高い方
- ❖ 腎臓の機能が悪い方

治療効果やメリットは？

筋腫は平均して 50～60% 程度縮小し、筋腫による症状は約 90% の患者さんで改善するといわれています。

しかし、長期的には 10～15% の患者さんで筋腫の増大による症状の再燃を認めたり再治療を必要とする場合があります。



メリット

- からだに傷がほとんど残らない（足の付け根に 2mm 程度）
- 入院期間が短く、早期の社会復帰が可能
- 子宮を残すことができる
- 筋腫の数や大きさによらず、一度に治療できる
- 開腹手術で起こりうる合併症（術後の癒着、腸管や尿管の損傷など）や輸血の必要性がない
- 手術後でも行うことができる

デメリット

- 副作用、合併症がある（裏面をご参照下さい）
- 筋腫の再増大や症状の再燃をきたすことがある
- 組織をとることができないので、悪性を完全に否定できない

副作用や合併症の可能性は？

UAE は安全でからだへの負担が少ない治療ですが、下記のような副作用および合併症があります。合併症が生じた場合も、適切な治療を行うことで回復することがほとんどです。

塞栓後症候群

重い月経痛のような下腹部痛や発熱、嘔気嘔吐といった症状が起こります。下腹部痛は治療後6～12時間くらい続きますので、治療当日は点滴で鎮痛剤を使用して痛みを制御します。その後も軽度の下腹部痛が残ることがありますが、1週間程度で改善することがほとんどです。

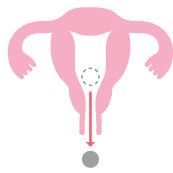


卵巣機能の低下

塞栓物質が卵巣側に流れ込んでしまった際に卵巣機能が低下し、無月経になることがあります。ほとんどの場合、月経は回復しますが、特に45歳以上の患者さんの場合は回復せずに閉経になる場合もあります。

筋腫分娩・感染症

塞栓により壊死した筋腫が子宮内に嵌頓し、子宮口から排出されることを筋腫分娩かんどんといいます。自然排出が難しい場合や感染を合併した場合は手術で筋腫を摘出します。また、膣などの細菌が筋腫に感染することがあり、この場合は抗生剤による加療などを行います。いずれにおいても最終的に子宮そのものを摘出する手術が必要となる場合もあります。



その他

造影剤によるアレルギー、穿刺部の血腫や血管損傷、深部静脈血栓症など、カテーテル治療による合併症がありますが、いずれも頻度は低いです。その他、非常に稀ではありますが子宮壊死や子宮内腔の癒着(Asherman症候群)、非標的臓器塞栓(膀胱や直腸など子宮以外の臓器を栄養する血管が塞栓される)などの合併症も報告されています。



受診～手術までの流れ

1. 受診

産婦人科と放射線科が連携して治療に取り組んでいます。産婦人科と放射線科の外来を両方受診していただき、検査の手配や治療の説明を行います。

産婦人科 + 放射線科

2. 検査

MRI 検査などの必要な検査を行った後、治療の適応となるかどうかを判断します。



3. 施術・入院

治療前日に放射線科病棟に入院していただけます。入院翌日にUAEを行い、3日間様子をみて問題なければ退院となりますので、入院期間は4泊5日となります。

入院期間 **4泊5日**

治療後一週間程度で社会復帰が可能

4. 定期受診

退院後は定期的に産婦人科と放射線科の外来を受診していただき、経過を見させていただきます。



入院費について

保険が適応されますので、3割負担の方では入院費用を含め15～20万円前後になります。